

2013年8月19日

北海道開発局長 澤田 和宏 様
北海道開発局室蘭開発建設部長 戀塚 貴 様

(一般社団) 北海道自然保護協会 会長 佐藤謙
十勝自然保護協会 共同代表 安藤御史・佐藤与志松・松田まゆみ
富川北一丁目沙流川被害者の会 代表 中村正晴
平取ダム建設問題協議会 代表 松井和男
苫小牧の自然を守る会 代表 館崎やよい
イテキ・ウエンダム・シサムの会 代表 佐々木義治
胆振日高高校退職教職員の会 代表 高橋 守
自然林再生ネットワーク 代表 前田菜穂子

ダム堤体建設工事用道路建設に関する質問

私たちの7月3日付要望書に対し7月12日付回答をいただき、ありがとうございました。回答を検討した結果、私たちの要望に十分答えていただけていないと考えています。そこで、あらためて質問書を提出いたします。道路工事の日程も迫っていますので、回答を、8月22日までに事務局を担当している北海道自然保護協会へ送付願います。

送付先：〒060-0003 札幌市中央区北3条西11丁目 加森ビル6F 一般社団法人北海道自然保護協会 電話：011-251-5465 FAX：011-211-8465

質問事項

1. ダム堤体建設工事用道路建設域における貴重な動物

工事現場は、チノミシリなど重要なアイヌ文化をになう神聖な場所であるとともに、猛禽類の営巣地となるなど、貴重な動植物が存在することが知られています。「平取ダム環境調査検討委員会第8回資料3、4-2 動物」には、平取ダム建設によって影響が考えられる動物として、ハヤブサとエゾサンショウウオが挙げられていますが、それ以外の動物に対する影響はないと考えているのかどうか、見解を明かにしてください。

2. ハヤブサへの影響と環境保全措置について

上記資料の4-2-30において、ハヤブサの営巣地はダム直近の崖にあるため、工事の影響があると述べています。一方、4-2-61の環境保全措置においては、工事の影響が予想されるため、代替巣を確保するとしています。

- 1) 代替巣をどこにどのように確保するのか説明してください。
- 2) 代替巣が繁殖に機能する根拠をお示ください。
- 3) 一方で、代替巣においてハヤブサが繁殖するかどうかは不確実と述べていますが、その根拠をお示ください。
- 4) さらに、このような不確実な環境保全措置は、事前に保全策を考える環境影響評価の基本から外れますので、工事をせず何より先に適切な保全措置を講ずるべきではないでしょうか。これについてもご回答ください。

3. エゾサンショウウオへの影響と環境保全措置について

上記資料 4-2-34 において、エゾサンショウウオの生息地の一部分がダムにより消失すると述べています。4-2-61 で、環境保全措置として、常時満水位以上の湿地の確保を挙げておきながら、「産卵環境を確保しても、周辺の成体が産卵場として用いるかどうかわからない」と述べています。そのように保全措置にならない不確実性まで述べて、当初から不完全な環境保全措置の言い逃れを述べていると判断されますが、具体的に保全措置を講じないのかどうか、ご回答ください。

4. 植物への影響と環境保全措置について

「平取ダム環境調査検討委員会第 8 回資料 3、4-3 植物」の表 4-3-4 「予測対象とする植物の重要な種及び群落と影響要因」には、ダム建設によって影響を受ける植物約 50 種が示されており、表 4-3-8 に、それぞれの種がダム建設によって影響を受けると述べています。これらの植物に対して、ほとんどの保全措置が移植となっています。表 4-3-8 に示された、環境保全措置の中心は適地への移植です。しかし、移植には不確実性が伴うことが併せて述べられています。そのため、

- 1) 道路建設に伴い消失すると予測している植物種について、またそれらの種ごとに環境保全措置をどう講じるのかについて、それぞれ具体的にご回答ください。
- 2) 移植には不確実性が伴うと述べていますが、移植が成功しない場合に、その後、どのような保全対策を行なっていくのか、説明してください。

5. 工事との関係

上記の動植物の環境保全措置は、工事以前に行われるべきものですが、すでに実行されたのでしょうか。もし実行されていないのであれば、工事は環境保全措置を行ってから始めるべきと考えます。この点についてご回答ください。